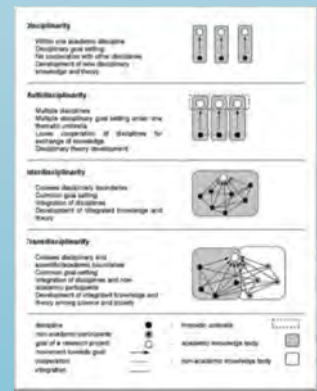


超学際 transdisciplinarity 研究手法の開発



研究者、国連担当者、政府代表、共同議長等でのワークショップ (NY)

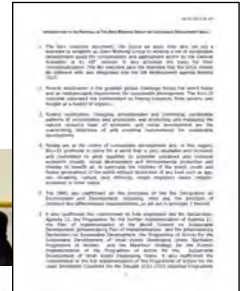
研究課題の設定、アウトプットの創出、実現プロセスで研究者と政策担当者・ステークホルダーが協働



議論内容の概念化、学術的根拠に則った提言策定・公表



成果文書 & 学術出版物



SDGsのグローバルガバナンスにおける概念化：Governing through Goalsの出版 (MIT Press, 2017)

今後の研究（中身）課題

- Synergy and Trade-offs : ターゲット間、課題間の相互関係（インターリンケージ）がどうなっているのか？【自然科学的連関】
- 課題間の調整・統合実施にかかる制度的メカニズムはどうなっているのか（国際・国内制度）？【社会科学的連関】
- 上記2者の相互関係はどうなっているのか？【トランスディシプリナリーな課題】

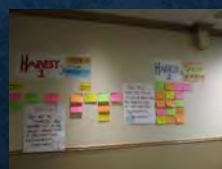


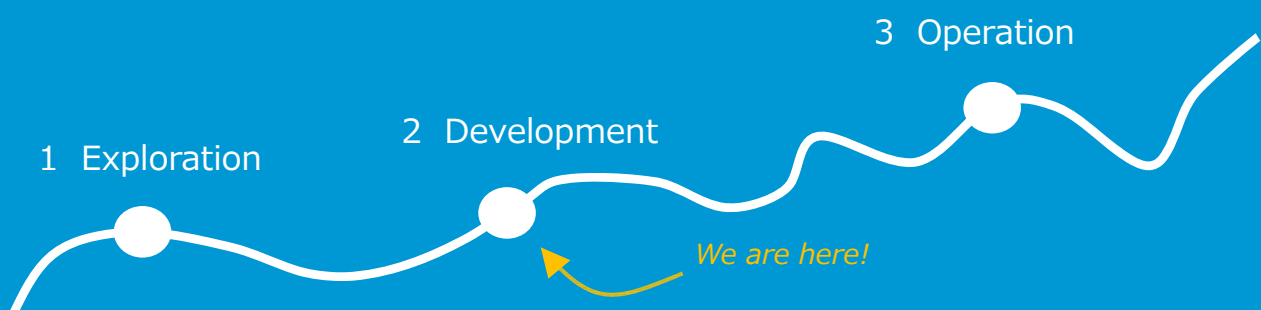
Fig. 1 - The knowledge arena: sustainability science as a collective learning process.

GOALS SCORING

The influence of one Sustainable Development Goal or target on another can be summarized with this simple scale.

Interaction	Name	Explanation	Example
+3	Indivisible	Inextricably linked to the achievement of another goal.	Ending all forms of discrimination against women and girls is indivisible from ensuring women's full and effective participation and equal opportunities for leadership.
+2	Reinforcing	Aids the achievement of another goal.	Providing access to electricity reinforces water-pumping and irrigation systems. Strengthening the capacity to adapt to climate-related hazards reduces losses caused by disasters.
+1	Enabling	Creates conditions that further another goal.	Providing electricity access in rural homes enables education, because it makes it possible to do homework at night with electric lighting.
0	Consistent	No significant positive or negative interactions.	Ensuring education for all does not interact significantly with infrastructure development or conservation of ocean ecosystems.
-1	Constraining	Limits options on another goal.	Improved water efficiency can constrain agricultural irrigation. Reducing climate change can constrain the options for energy access.
-2	Counteracting	Clashes with another goal.	Boosting consumption for growth can counteract waste reduction and climate mitigation.
-3	Cancelling	Makes it impossible to reach another goal.	Fully ensuring public transparency and democratic accountability cannot be combined with national-security goals. Full protection of natural reserves excludes public access for recreation.

Phases of Knowledge-Action Network development





The role of Development Team members

Network and connect people/orgs to the KAN themes and projects

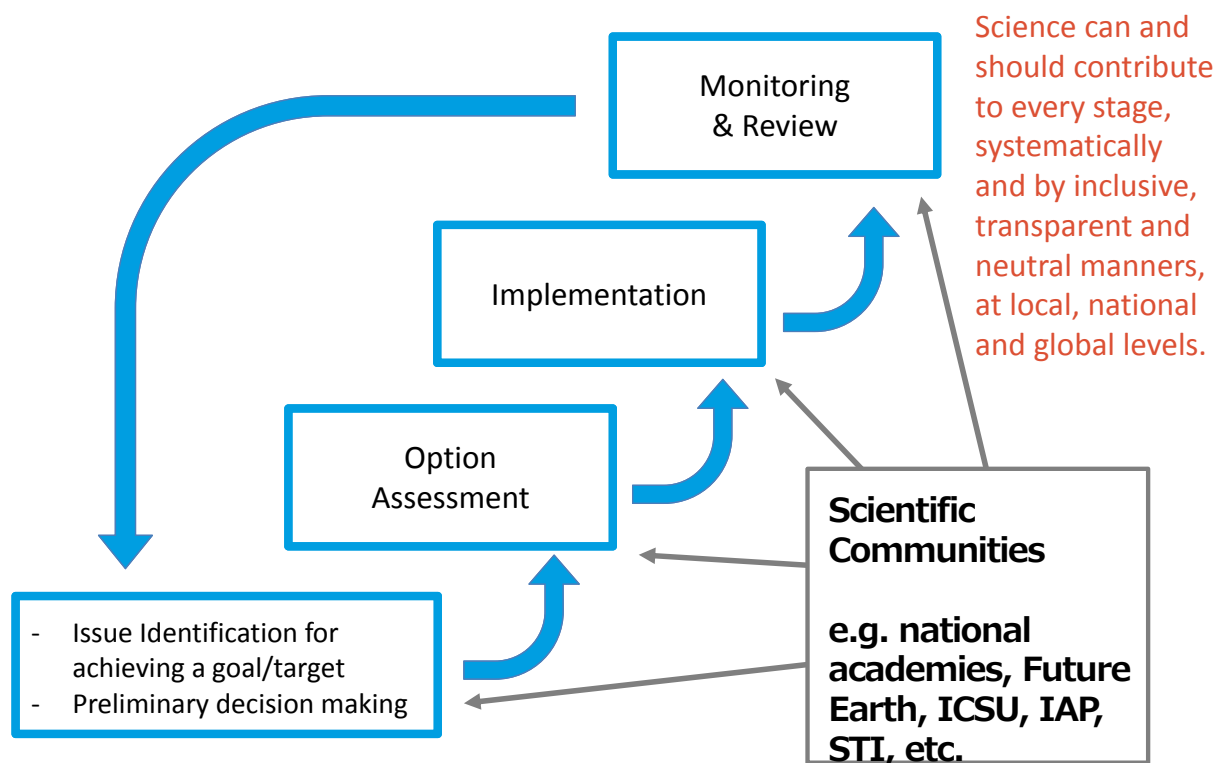
Initiate projects and help drive them forward

Work towards next step of governance: Steering Committee

Develop an action/strategic plan

Seek funding and support for KAN office and projects

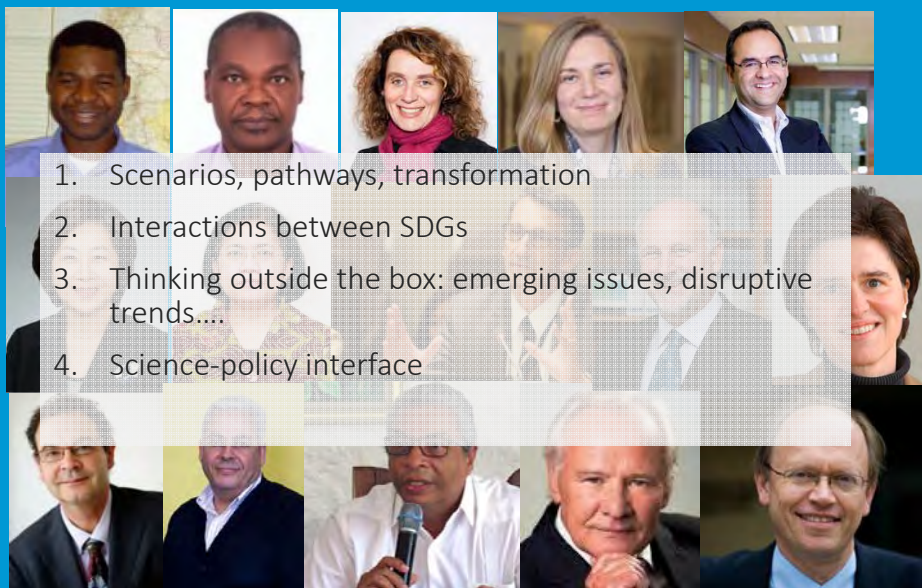
Policy making framework for SDGs



UN Global Sustainable Development Report



Drafted by 15 scientists (Jan 2017-Dec 2018)



SDG Workshops 2015-16

Measuring Sustainable Development Workshop

New York, April 2015

Foresight Workshop

Italy, April 2016



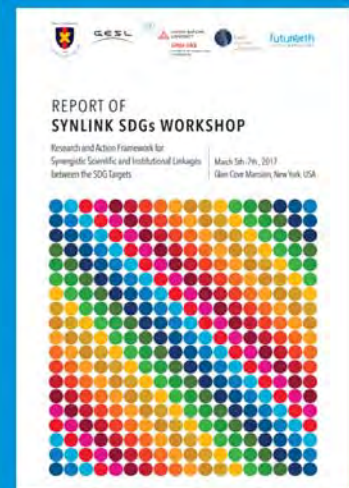
Governance initiatives

SynLink SDGs workshop

5-7 March 2017 in New York

Nature Sustainability paper (TBC)

Rules to Goals: New Governance Strategies
for Sustainable Development



2017

**INTERNATIONAL CONFERENCE ON
SUSTAINABILITY SCIENCE
ICSS 2017 IN STOCKHOLM**



2018



Other activities

- SDG interlinkages tool
- The World in 2050



若手アカデミーの活動とSDGs



第24期若手アカデミー・代表

九州大学工学研究院/分子システム科学センター 准教授

岸村 顕広

第24期若手アカデミー・若手による学術の未来検討分科会 委員長

海洋研究開発機構 (JAMSTEC) 研究員

川口慎介

第24期若手アカデミー・国際分科会 副委員長

京都大学防災研究所 准教授

西嶋一欽

1

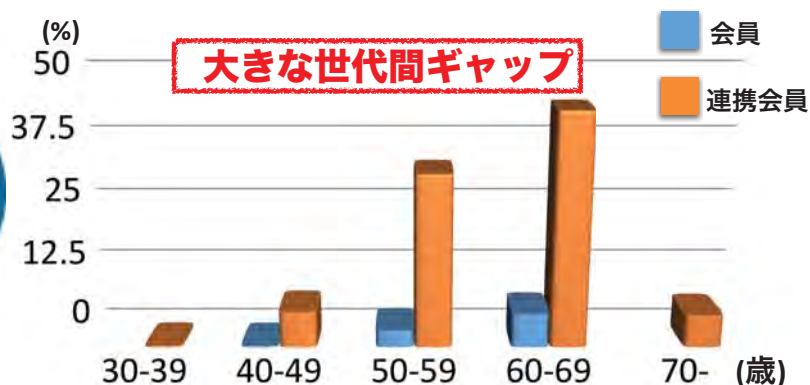


日本学術会議
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

- 科学(全体)に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。
- 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。

(HPより)

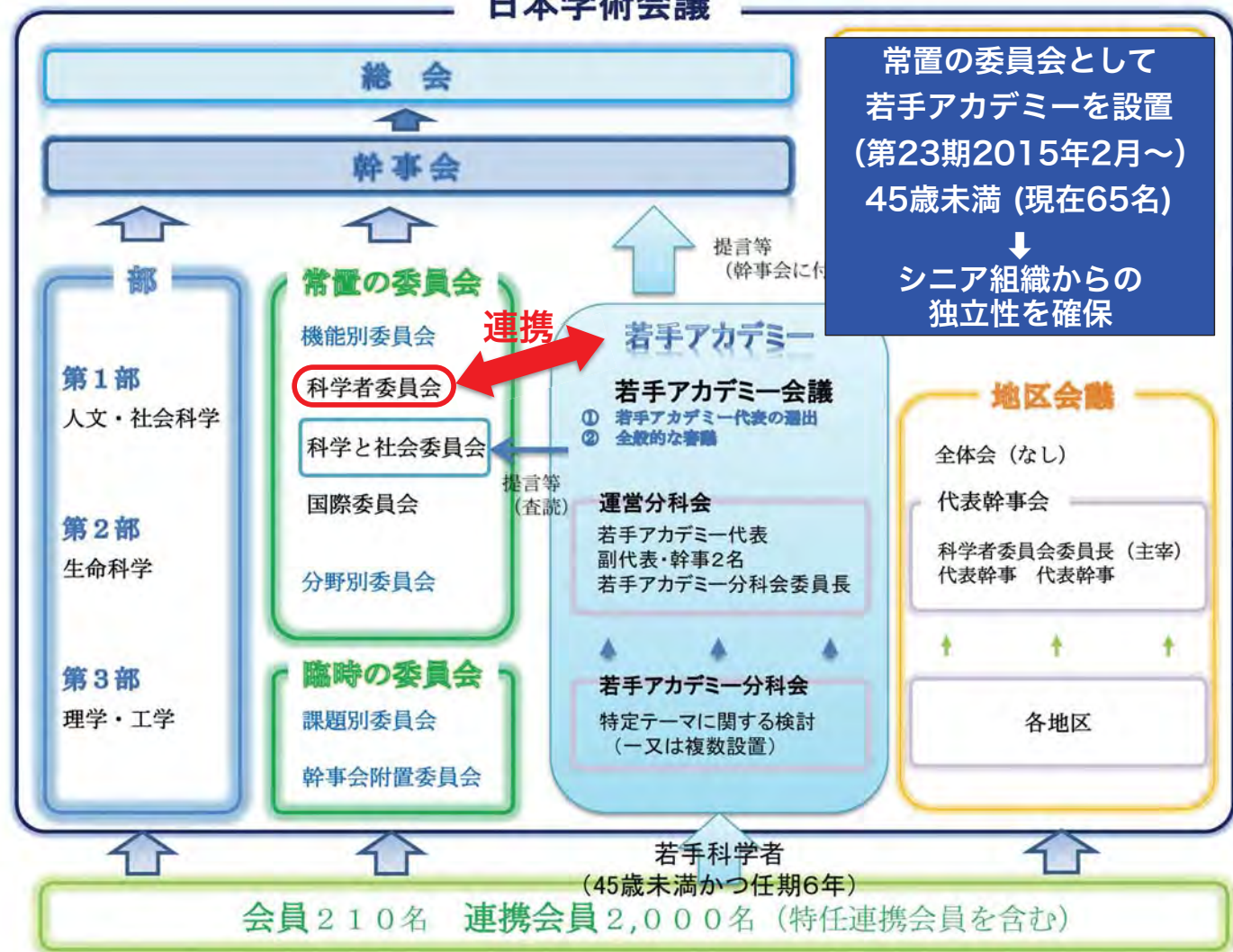
日本学術会議の年齢構成 (2008年10月時点)



- 次の世代の当事者に関わる課題を扱うには不十分。
- 組織が縦割りの傾向が強く、横断的課題を柔軟に扱うのに限界がある。 →若手アカデミー設立準備

(若手アカデミー委員会 2011.11～)

2



3

若手アカデミー (第24期) 発足 (平成29年12月28日)



三成副会長と記念撮影する若手アカデミーメンバー

(埴淵メンバーによるデザイン)



代表
岸村顕広



副代表
新福洋子



幹事
岩崎渉



幹事
高瀬堅吉

63名で活動中

日本の若手アカデミー（YAJ）の活動：分科会がメイン

若手のための、あるいは、次世代としての活動を”異分野連携の下に”行う。

- ① ③ (1) 若手科学者の視点を活かした提言
- ② (2) 若手科学者ネットワークの運営
- ① ② (3) 若手科学者の意見収集と問題提起
- ④ (4) 若手科学者の国際交流
- ③ (5) 産業界、行政、NPO との連携
- ① ② ③ ④ (6) 科学教育の推進
- ③ ④ (7) その他目的の達成に必要な事業

広報など

①若手による学術の未来検討分科会
(役員：川口慎介、平田佐智子、中村征樹、埴淵知哉)

②若手科学者ネットワーク分科会
(役員：酒折文武、岩崎 渉、井頭麻子、前川知樹)

③イノベーションに向けた社会連携分科会
(役員：高山弘太郎、高瀬堅吉、上村想太郎、谷内江 望)

④国際分科会
(役員：新福洋子、西嶋一欽、中西和嘉、安田仁奈)

- 基本的に縦割りの構造は取らず課題別にグループを設定（多様性と機動力を確保）
→従来の『分野別』では解決困難な課題に柔軟に対応
- 次の時代に対して責任を取るべき世代としての自覚を持った活動
- 『高度かつ多様な次世代人材のプール』として社会への窓口・ハブとして機能
→SDGsに取り組むに当たって、力を発揮できる組織

5

若手による学術の未来検討分科会

委員長 副委員長 幹事
川口慎介 平田佐智子 埴淵知哉 中村征樹



【若手アカデミーの活動内容】

- (1) 若手科学者の視点を活かした提言
- (2) 若手科学者ネットワークの運営
- (3) 若手科学者の意見収集と問題提起
- (4) 若手科学者の国際交流
- (5) 産業界、行政、NPO との連携
- (6) 科学教育の推進
- (7) その他目的の達成に必要な事業

学術環境が劇的に変化する中、学術界を取り巻く現状の認識を深めながら、来る時代における学術の有り様を検討することが求められる。学術の未来を担う若手科学者の置かれた現状を分析し課題を解決する方策を検討するとともに、学術の発展により獲得される新たな自然理解が社会をどのように変容しうるかを検討する。

メンバー（23名：平成30年6月18日現在）

氏 名	所 属 ・ 職 名
伊藤 恵理	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所電子航法研究所主幹研究員
上田 泰巳	東京大学大学院医学系研究科 機能生物学専攻教授
内田 さやか	東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻准教授
遠藤 求	京都大学大学院生命科学研究科分子代謝制御学准教授
大矢根 綾子	産業技術総合研究所ナノ材料研究部門主任研究員
岡崎 さや香	名古屋大学大学院経済学研究科教授
川口 慎介	国立研究開発法人海洋研究開発機構研究員
河原林 健一	国立情報学研究所教授
岸村 顕広	九州大学大学院工学研究院応用化学部門・九州大学分子システム科学センター准教授
木村 周平	筑波大学人文社会系助教
實藤 和佳子	九州大学大学院人間環境学研究院准教授
武田 宙也	京都大学大学院人間・環境学研究科准教授
谷口 洋幸	高岡法科大学法学部教授
土居 太祐	新潟大学人文社会・教育科学系（経済学部）准教授
所 裕子	筑波大学大学院数理物質科学研究科准教授
中村 征樹	大阪大学大学院教育推進機構准教授
福永 真弓	東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授
馬奈木 俊介	九州大学大学院工学研究院教授
村上 祐介	東京大学大学院教育学研究科准教授
森 章	横浜国立大学環境情報研究院准教授
埴淵 知哉	中京大学国際教養学部教授
平田 佐智子	専修大学兼任講師
谷内江 望	東京大学先端科学技術研究センター合成生物学分野准教授

- ①学術への期待と課題（若手から/若手へ）
- ②科学者のあり方、ライフワークバランス
- ③人文社会科学の未来
- ④発展する自然理解とその社会との対話